平成２３年 秋の叙勲 第１７回 危険業務従事者叙勲

平成２３年１１月３日に発令された、平成２３年秋の叙勲および第１７回危険業務従事者叙勲の市内の受章者を紹介します。

旭日小綬章（地方自治功労）

さかもと みさお
坂本 節さん（８０歳）
物部町仙頭

坂本さんは、昭和５０年に物部村議会議員に当選以来、通算９期２７年余り務められ、平成７年５月から２年間、議長の要職を務められました。

平成１８年３月からは、香美市議会議員に就任され、平成２２年９月に勇退されました。

在職中は、医療施設の充実や介護福祉施設の設置を提案し、物部村立大栃診療所と高齢者生活福祉センター『こづみ』が完成し、地域の医療福祉の向上に寄与されました。

また、昭和５３年から２３年余り、物部村農業委員会委員を務め、平成５年から１２年間は同委員会会長を務めるなど、物部村内の農業の発展に尽力されました。

旭日双光章（地方自治功労）

なかざわ よしみ
中澤 愛水さん（７０歳）
土佐山田町植

中澤さんは、昭和６１年に土佐山田町議会議員に当選以来、連続５期１９年余り務められ、平成８年９月から２年間は、議長の要職を務められました。

平成１８年３月からは、香美市議会議員に就任されました。合併後初の選挙に当選した同年９月からは、４年間議長の要職を務められ、平成２２年９月に勇退されました。

在職中は、主に『プラザ八王子』や『秦山公園』の建設にも携わったほか、市町村合併の必要性について、常に冷静な判断と地域住民の意思を積極的に議会に提言するなど、地方自治の育成と発展に貢献されました。

瑞宝双光章（危険業務）

かわむら としあき
川村 利明さん（７１歳）
土佐山田町本村

川村さんは、昭和３８年４月に高知県警に採用され、平成１３年３月に窪川警察署署長を最後に退職されました。

警察学校を修了し、昭和３９年から昭和４８年まで山田警察署で勤務され、再度、昭和５４年３月から昭和５７年３月まで、山田署に警備課長として配属されました。

主に警備畑を回られ、皇室・大臣が来高した際には、警衛・警備を務められ、その重責を果たされました。

川村さんは、「警察は地域の方と密着していないとできない仕事。在職中は地域の方に親しまれる警察像を目指していた」と話されました。

瑞宝単光章（危険業務）

こうめい かずお
光明 和夫さん（６８歳）
土佐山田町山田（小島）

光明さんは、昭和４５年１月に土佐山田町消防本部に消防士として採用され、平成１３年３月に退職されるまで、３１年余りにわたり、その職務を全うされました。

在職中は、防災活動はもとより救急業務、予防業務に尽力されました。特に救急業務においては、高度な知識と技術および豊富な経験を駆使し、職員の指導育成にも尽力され、消防職員の資質向上を図られました。

また、消防司令として、平成１１年４月から平成１２年３月まで香北分署長を、平成１２年４月から平成１３年３月までは消防署長を務められ、地域の消防行政に大きく貢献されました。

協働の森づくり 地域間交流事業開催！

香美市と**環境先進企業との協働の森づくり事業**のパートナーズ協定を締結している３団体（ルネサスエレクトロニクス㈱、セントラルグループ、高知工科大学・高知工科大学後援会）によって、地域間交流事業が開催されました。

丸太切り競争

豆腐作り体験

▲ルネサスフォレストランド２０１１

１０月１５日、市基幹集落センターで、**ルネサスフォレストランド２０１１**が開催され、ルネサスエレクトロニクス㈱高知事業所の関係者や大宮小学校児童らほか６５人が参加しました。

森林に関するクイズ大会や、丸太切り競争、木エクラフトの制作を楽しみました。

▲セントラルグループ香美市物部の森２０１１

１０月２２日、**セントラルグループ香美市物部の森２０１１**が開催され、セントラルグループの関係者１９人が参加しました。当日は、雨天となったため、物部森林ストックヤード（物部町中谷川）の工場見学のほか、農林漁業体験実習館（物部町別府）で豆腐作り体験をしました。

網附森頂上

◀高知工科大学ー物部川共生の森２０１１

１１月３日、**高知工科大学ー物部川共生の森２０１１**が開催され、高知工科大学の学生および教職員等３４人が参加しました。当日は、小雨がぱらつく中、物部町の網附森（つなつけもり）登山道において事前に物部森林組合が刈り払いをしたクマザサの除去作業に汗を流しました。

１１月４日、香南市のいちふれあいセンターで、**県薬剤師会香長土支部**と**中央東福祉保健所管内７市町村**との間で、地震等による大規模災害が発生した場合の医療救護活動において、医薬品の提供と薬剤師の派遣協力を得る協定の締結式が行われました。

この協定は、東日本大震災において薬剤はあっても薬剤師がいなかったために、適切な処方ができなかったことなどを教訓に、中央東福祉保健所の支援と同支部の全面的な協力により実現されました。

今後、活動する避難所や必要となる医薬品の種類などの具体的なことを協議しながら、災害発生時の医療救護活動が少しでもスムーズに進むように調整が図られていくとのことです。

災害時応援協定